

事例 17

青空砂防教室

背景

大蔵村は豊かな自然環境に恵まれている反面、昔から土砂災害に悩まされてきた地域です。子供たちに土砂災害についての正しい知識をもってもらうことは、地域を知るだけでなく、防災意識の向上にもつながります。そこで地域の自然や土砂災害に関する学習について協力する旨を、村の教育委員会に対し説明を行ったところ、各学校から当所に施設見学・資料提供や説明の依頼があり実施されました。

内容

地域の自然特性を知り、地すべりなど土砂災害の発生要因についても理解してもらうため、過去の災害の履歴を資料や写真を用いて説明したり、身近な砂防・地すべり対策施設の見学を行い、自分たちの生活が様々な施設により守られていることを学びました。



工事現場を見学



排水トンネル入口で記念撮影

ポイント

- 青空の下、管内の砂防・地すべり対策施設に触れながら説明や話し合いを行い、子供たちが自然を感じながら学べるよう工夫しました。
- 自分たちの住む地域を見つめ直すきっかけとなるように、過去の災害の話も交えた説明をしています。
- 出張所が保管する資料を使い、説明は児童や生徒の立場に立ち、説明は分かりやすく丁寧に行いました。また、児童の疑問や質問を重視し、質問に答えながら話題を広げていく工夫をしています。

DATA

場所：山形県大蔵村
 実施者：新庄工事事務所 地域振興相談室 [TEL (0233) 22-0251]
 参加者：大蔵村立南山小学校4～6年生他14名、大蔵村立大蔵小学校6年生他36名、大蔵村立沼中学校1年生他5名、大蔵村立赤松小学校5.6年生、大蔵村立肘折小学校3～6年生
 実施日：平成11年7月8日・9日・20日、平成12年7月11日・9月5日・9月29日
 学習時間：1～2時間

関係する分野



成果

過去の災害の履歴を資料や写真などで見せたことと、身近な砂防・地すべり対策施設を見学したことにより、自分たちの生活が様々な施設により守られていることを学びました。また地域の自然特性を学ぶことで、地すべりなど土砂災害の発生要因についても理解し防災意識の向上に役立ちました。
 沼中学校については、見学で学んだことや地元のお年寄りに聞いた話をまとめ、施設の写真をまじえた壁新聞を作成し、校内の「総合的な学習」の発表会で全校生徒に対し発表しました。なお、壁新聞は工事事務所広報室やパネル展においても展示を行いました。冊子「もっと知りたい銅山川砂防」を制作し、見学者の感想をまとめて掲載しました。

参加者の声

「災害がおきないようにたくさんの人が仕事をしていることを知りました。そして、大切な仕事だなあと思いました。この学習会で、自然の恐怖やその対策を覚えてもらうことができました。」
 (大蔵村立赤松小学校)

「私をもっと大人になったら、ちいきの人達と協力して、自然にやさしく、災害のない一番の村にしたいのです。なので、今回見学ができてとてもよい経験ができてよかったと思っています。」
 (大蔵村立肘折小学校)

「私は保育所のころ、大きくなったら工事現場で働いてみたいなあと思っていたので、工事現場を見ることができて、ヘルメットをかぶらせてもらったので、と一っでも楽しかったです。」
 (大蔵村立肘折小学校)



冊子「もっと知りたい銅山川砂防」



中面に掲載されている見学会の様子



子供たちが書いてくれた感想文

対新小 鈴木 翔真

私は、もらったパンフレットを見てとてもおどろきました。それは、ダムがたくさんあったからです。とくに、赤松川と横道川の川に、固をみると合計で二十以上のダムがありました。それで、「なんでこんなにダムがあるのだろう、いくら、土砂災害が多くてこんなに作る必要があるのかな、いくらなんでも多すぎる」と思いました。家に帰ってお母さんにパンフレットを見せると、「なんでこんなにたくさんのダムを作るんだ」と私と同じことを言っていました。そして、ダム材料に少しでも節度方法があるのなら、そちらの方をもっとたくさんすればこれ以上作る必要もないんじゃないかなあとも思いました。でも、土砂災害を防ぐためにはしかならないのかなあとも思いました。

それから、ダムの工事現場に初めて、行くことができたので、とてもうれしかったです。工事用のヘルメットを借りてかぶりました。私は、保育所のころ、「大きくなったら工事現場で働いてみたいなあ」と思っていました。だから、工事現場を見ることができて、ヘルメットをかぶらせてもらったので、と一っでも楽しかったです。でも、そのおまの川を見たら、なんだか涙が溢れかえり、ちょっとじゃなくて、かなりこわかったです。これで、土砂災害などが起こらないといいなあと思いました。そして、最後に行った肘折第二ダムに行く道は初めてでした。トラックとすれちがった時は、車と車の間がギリギリだったので、ちょっとこわかったです。むこうについたら、外にでることはできなかったで、少し残念でした。

「今、壁の中のダムが全部完成したら、土砂災害が起きても、少しは平気かなあ。そうだなあ、と思いました。」

次のステップに向けて

- 日頃忘れられている安全に生活するという大切さと、そのための対策と大きさを肌で感じてもらい、防災について学習を深めていくことも考えられます。
- 自分たちの住む地域を見つめ直す契機となり、さらなる地域学習への広がりが考えられます。